



Good News for Japan **とぎのこえ**



浅瀬と深淵

眞鍋 和枝

青森県の十和田湖に行つたことがありますか。私は、高校三年の時、夏の暑い頃に行きました。湖水の色が場所によって全く違うのです。浅い部分のコバルトブルー、深い部分の藍色——自然が作り出す情景に、ただ圧倒されたことを思い出します。浅瀬に近寄ると透き通って気持ちが良い、深い部分は底が見えず吸い込

まれてしまいそうでした。自然の中にある湖の浅瀬と深みからくる湖水の変化は、創造主なる神様の御手の業のすばらしさを表しています。

救世軍の歌の中に「あおくすみわたるガリラヤ湖に 主は十字架のかけ見られたのか」

という賛美歌があります。今から二千年前、青く澄み渡るガリラヤ湖畔に立ち、イエス様が、さわやかな風を受けながら、話をされ、人々の病気を癒されたということが、聖書に記されています。このイエス様は、最後には私たちの罪の身代わりとなって、十字架にかかって死んでくださいました。

罪とは、神様を認めず、

自分勝手に生きることです。

そして、その行き着くところは永遠の死です。神様は、滅びるばかりの私たちを憐れんで、その独り子イエス様をこの世に遣わし、十字架での死という罪の罰を負わされました。そして、三日目によりみがえらせて、罪に打ち勝たせてくださいました。イエス様の十字架の死が自分の罪の身代わりであることを信じる人はだれでも、滅びを免れ、感謝と喜びの人生を送り、神様のところ(天国)へ行くことができますようにになりました。

自己中心的な生き方しかなかった者が、神の独り子のイエス・キリストの救いに与ることができることは、なんと素晴らしいことでしょう。

「光の中にある聖なる

者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父(神様)に感謝するように。御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移動してくださいました。わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」(コロサイの信徒への手紙1章12-14節)

神様は、イエス・キリストを信じて光の中を歩むようになった人を、いつも見守り、その歩みを守り支えてくださいました。湖に浅瀬と深淵があるように、私たちの心にも浅瀬と深淵な部分があります。浅瀬は表面的な部分で、誰の目からも隠すことはできません。そして、深い部分は、隠された部分——底が見えず、時には自分でも理解できない、気づかなかつたものが潜んでいる部分です。

最近、私自身、自分の中の深淵に直面する体験をしました。普通に時を過ごし静かに夜を迎えた一日、心

の中に小さな小石が落とされたのです。それがきっかけで、深い部分が表面に浮かび上がり、波紋が広がり、心の壁を乗り越えて出てきたのです。自分でもびつくりしました。自分を傷つけ、周りを否定するような、普段考えもしない言葉が後から後から口をついて出てくるのでした。これは、自分でも気づかなかつた私の罪の部分だったのかもしれない。神様は、そこに気づかせてくださいました。私は、聖書の言葉を示され、もう一度、悔い改めることにより罪を赦され、闇の力から全面的に解放されることができました。

聖人君子など一人もいません。誰もが神様の救いと、導きを必要とする迷子なのです。いつでもどんな時でも、私を愛してください。愛する父なる神様は、あなたをも愛してください。罪の問題に打ち勝たせ、光の中を歩けるようになさる神様を信じて、あなたも一緒に喜びの毎日を通していきましょう。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

昨年の東日本大震災以来、救世軍は被災地の救援・支援活動に携わってきました。日本国内はもとより、世界中の救世軍を通して寄せられた献金や物品を用いて、被災地の必要に^{こた}応えています。その中でも、香港

の救世軍からは何度も指揮官(代表者)と災害救援担当者が来日し、視察とともに救援活動に加わっています。



サムエル・ホーさん

神様に守られ、導かれて、 現在がある

〔インタビュー〕

政府は無料で住む所を提供し、三食用意してくれて、更に二週間に一回、お金を支給してくれました。ありがたかったですね。

―その後、救世軍の士官にされたのですか。

ホー オーストラリアに来て一年後、牧師になりたいという思いがあることを、救世軍の小隊長(牧師にあたる)に話しました。すると、「救世軍にも士官を養成する士官学校がある。費用なら心配ない」と。難民の私にとってお金がないことは大きな問題でしたから、神様に感謝しました。

私にとつて、救世軍の働きに加わることは大変良いことだと思えました。救世軍は、福音を語るだけでなく、神様の愛を実行しているという点で大変魅力的でした。難民だった私が受け入れられ、衣服などの世話をされることによって神様の愛を受け取った経験をしたからです。また、オーストラリア政府に恩返しをすることにすることも思いました。士官になることで、今度はオーストラリアの人々に何かができると思ったのです。それから約一年間働いて、士官学校に入り、二年後に士官としての働きに就きました。士官になってからは、主に、中国人伝道の働きをしてきました。

―サムエル・ホーさんのご出身は？

ホー ベトナムです。私は中国系のベトナム人で、サイゴンで生まれ育ちました。家族は、祖母と両親、私を含めた四人の子どもでした。両親は若く貧しかったので、私たちがキリスト教会に行かせました。教会が子どもを見てくれたからです。無料託児所というところですね。(笑)私は、教会がおこなうたくさんの方活動をして、ずっと教会で過ごしました。賛美歌を歌ったり遊んだり……。小さい頃は教会にいたことが楽しくて仕方ありませんでした。

―祖母は仏教徒でしたが、私が教会に行くことを喜んでいました。おそらく、とても単純に、キリスト教会は良い事を教えてくれる所だ、悪い所ではない、と思っていたのでしょう。

―では、このような環境の中で、自然に、クリスチャンになられたのでしょうか。

ホー そうですね。本当に自然に、神様を信じるようになってきました。青年世代になっても、私は教会にとどまっていた。ある時は、聖歌隊の中になつた一人の男子だったこともあります。これは、小学生の頃の先生がクリスチャンだったことも大きく関係して

いると思います。それがあつたから、教会につながり続けることができたとも言えます。

―ところで、お生まれになった頃は、ベトナム戦争の時期ですね。

ホー はい。私が生まれたのは戦争の最中でしたし、ベトナムで過ごした時間すべてが戦時下でした。一九六八年の正月には、ベトコン(南ベトナム解放民族戦線)が米国大使館を襲い、一九七二年には戦線が南下し、サイゴンの近くも戦場になりました。そして一九七五年に敗戦となりました。

―そのような中で、ベトナム脱出をされた……。

ホー 私も両親も、このようなベトナムで将来が描けなかつたのです。やがて、カンボジアへの侵攻が始まり、青年たちも戦争に駆り出されるようになりなりました。私が十八歳の頃でした。戦争には加担したくない―私は、神様に問ひかけ、出国することに祝福があるように祈りました。私はその時すでに、将来キリスト教の牧師となり、すべての時間を神様に献げるように、導かれていました。

七月に一度脱出を試みましたが失敗に終わりました。その日から、ベトナムを離れるまで三年間かかりました。そ



来日時に女川町での給食活動にも参加

ンが少なく、福音を伝えるべき人がたくさんいます。同時に、多くの社会的なニーズがあり、社会福祉の働きを期待されています。救世軍は、社会福祉の分野で大きな役割を果たしていますが、もっとたくさんの人材が与えられることを願っています。

私の仕事は、人々を神の愛によつて励ますことです。ビジョンを共有し、共に計画を立て、それを完遂する。神様は、ご自身の目的を達成するために私たちを用いてくださるのだ、と励ましています。やるべき事はたくさんあります。が、神様が示してくださった働きをおこなっていきたくと思っています。

―東日本大震災の救援活動では、香港の資金を用いて多くの救援・支援活動をしていただきました。ホーさんご自身も何度か来日しておられますが、日本の震災と救援活動に関して、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

ホー これは単に日本の問題だけではない、震災は世界の問題であると思っています。日本であるかどうかということよりも、そこに傷ついた人、困難の中にある人がいるということですね。

私は、被災地にはないので、人々の本当の苦しみは理解す

して、一九七八年六月十七日、私の二十一歳の誕生日にベトナムを離れて、マレーシアで保護され、国連の難民支援の方に助けられて、オーストラリアのメルボルンに行くことができました。

―ご家族全員で脱出されたのですか。

ホー はい、この時は私一人です。第一は、費用です。非合法的に船で出国するために多額の費用がかかりました。第二に、逃亡は危険を伴います。家族一緒でなければ、一人が死んでも他の家族は生き残れます。私の知り合いの家族は三世代一緒に逃亡を試み、全員殺されました。両親は全滅を防ぎたかつたのだと思います。

一年後に弟が脱出。その後両親、妹……と、十一年かかりましたが、家族全員がオーストラリアに渡ることができました。本当に神様に感謝しています。

―ホーさんは、オーストラリアに着いた後、どうされましたか。

ホー すぐ、難民のための宿泊施設に入ることができました。すると救世軍の士官(伝道者)が宿舎を訪ねて来て、衣服などの世話をしてくれました。その時が救世軍との初め



最初の日は、施設長が紹介してくれた教会の礼拝に出席しました。その後、衣服の世話をしてくれた救世軍士官が訪ねて来て、誘われて救世軍小隊(教会にあたる)の伝道集会に出席しました。そこは、会衆二十〜三十人くらいの小さな小隊でしたが、温かく私を受け入れてくれました。タバコも禁止されていて、自分に合っていると感じました。それから、そこに出席するようになりました。

―言葉の問題はいかがでしたか。また、生活は？

ホー 英語は全く話せませんでした。家族と離れて、一人ぼっち、本当に寂しかったです。毎晩泣きながら、母親に会いたい、と日記に書いていました。そんな時、私より先にベトナムを脱出してシドニーに来ていた家族がいて、その娘さんドニーが私に手紙をくれたのです。ドニーとはベトナムで知り合いだったので、どんなに慰められ、力づけられたかしれません。

生活のほうは、オーストラリア在留許可がおりてから、
―最後に、戦時下のベトナムを生き抜いた経験から、「平和」についてのコメントをお願いします。

ホー 新約聖書に出てくる伝道者パウロは、「キリストにある平和」ということを強調しましたが、それが一番大切なことです。イエス・キリストは私たちの罪の身代わりとなって死に、三日目に復活して、私たちが罪を赦され神様と和解できるようにしてくださった―このことを信じる人の心に、キリストの平和がもたらされます。神様と和解することなしに本当の平和はありません。一人ひとりがこの平和をもつことで、人と人の間、国と国の間に平和が生まれるのだと思います。

香港マカオ地区指揮官(救世軍士官(伝道者))

―クリトリー
ご住所
□□私の近くの救世軍を紹介してください。
□□キリスト教についてもっと知りたいです。
□□「ときのかえ」の購読を申し込みます。
ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大將 リンダ・ボンド (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 吉田 眞 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp E-mail: webmaster@salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈コンゴ民主共和国〉 難民支援一統報

政府軍と反政府勢力の衝突により内戦が続いているコンゴ民主共和国では、東部の国境付近の難民問題が深刻化しています。

コンゴ国内にあるムゲンガ難民キャンプでは、これまでに 10,000 人近くの人々に食料を配給していますが、6 月 25 日現在、他の救援団体の活動がまだ始まっていないため、より多くの食料配給が急務となっています。また、食糧と共に不足しているのが、簡易テント (住居) を作るのに不可欠なビニールシートです。

コンゴ共和国に隣り合うルワンダでは、2 つのプロジェクトが進められています。一つは、難民キャンプにいる妊産婦への衣服と栄養補助食品の提供、もう一つは、難民の健康問題に対応する医薬品の支給です。この 2 つのプロジェクトは、救世軍と国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、そして難民キャンプで活動している他の国際支援団体との協同で進められています。

ウガンダにも、コンゴからの難民が多数逃げて来ています。救世軍は 6,000 人の避難民に食糧と飲み水を提供するとともに、さらなる支援計画を実行しようとしています。このために、ナイジェリアや英国、オランダからの救援活動の経験豊かな人材による国際救援チームが組織され、ウガンダに向かいました。

〈ナイジェリア〉 航空機墜落事故一捜索・復旧活動支援

6 月 3 日、ラゴスのムルタラ・モハメド空港に向かっていた旅客機が、空港近くの住宅密集地に墜落、乗員乗客 153 人と付近の住民が多数死亡しました。現地の救世軍は、翌日、関係機関の代表者・責任者と必要な救援活動について協議し、3 つのチームに分かれて、捜索・復旧作業に従事する人々へスナック類と飲み物の提供をおこないました。救世軍はこの地でのニーズを調査し、中長期的な支援活動をおこなっていく予定です。

〈日本〉 東日本大震災 被災地復興支援レポート (続)

6 月 26 日、宮城県気仙沼漁協に対する復興支援品 (既報: 作業用トラック、大型テント、潜水具と大型コンプレッサー) の贈呈式がおこなわれました。これは、救世軍が被災地の漁協関係者に対して様々な支援をおこなってきた中で、気仙沼漁協の緊急のニーズを知り、米国救世軍からの献金を用いて提供したものです。今回提供の潜水具は瓦礫撤去や海底調査等のためにも用いられ、パワーゲート付の作業用トラックは、収穫したワカメを市場に輸送するほか、燃料等の危険物の輸送についても可能な仕様となっています。贈呈式には、宮城県漁業協同組合の代表、救世軍側からは震災支援事務局長と社会福祉部長が出席。漁業協同組合からは、感謝状をいただきました。



提供したトラックや潜水具など

救世軍では、被災された方々の精神的なケアの必要を覚えつつ、いくつかのチームが出かけて活動を続けています。6 月末には、北海道からのチームが岩手県陸前高田市と宮城県名取市の仮設住宅や仮設団地において、「ホッと一息」をテーマに、コンサートと食事を開きました。7 月初めには、東京からのチームが岩手県大船渡市の仮



手作り帯広名物豚丼を提供

設住宅を訪問し、七夕の星空をイメージした、かき氷を提供しながら、交流を深め、話を聴く時をもちました。一方、災害時の対応マニュアルの整備や学びの必要もこの時期叫ばれています。クリスチアンのネットワークの一つである JEA (日本福音同盟) は、7 月初め、米国から救世軍の災害支援コーディネーターのケビン・エラズ氏を招き、「災害対応チャプレン・プログラム フォーラム」をおこない、救世軍もこれに協力・参加しました。

救世軍バザー場ご案内

● 救世軍バザー場

166-0012 東京都杉並区和田 2-21-2
Tel 03-5860-2992
(東京メトロ丸の内線 中野富士見町下車、徒歩 10 分)

オープン: 毎週土曜日 9:00 a.m. ~ 2:00 p.m.

~新中古衣料、雑貨、電気製品、家具、書籍など、豊富なリサイクル品があり、朝早くから大勢の方のご来場をいただいています~

ここでの作業を通して、アルコール依存症者支援施設「男子社会奉仕センター」の利用者が、身体的・精神的回復を図り、社会復帰を目指して訓練を受けています。

こちらをご利用ください。

● 救世軍バザー場 江東出張所

130-0012 東京都墨田区太平 4-11-3
Tel: 03-3626-0738
(JR、東京メトロ半蔵門線 錦糸町下車、徒歩 8 分)

オープン: 毎週土曜日 10:00 a.m. ~ 3:00 p.m.

救世軍とは

プロテスタントのキリスト教会の一派で、どのような人も神を信じるなら即座に救われ、聖い生活を送ることができるとの信仰に立っています。一八六五年、イギリスで、メソジスト教会の牧師ウィリアム・ブリスが、社会の底辺にいたる人々に神の愛を届けようと、創立しました。現在では、世界百二十四の国と地域に広がり、働きを進めています。どこの国・地域においても、助けを求める人々の必要に応え、社会福祉や医療などの様々な働きをおこなって、神の愛を伝えていきます。近年は、災害被災者支援や開発途上国の自立支援活動なども、国際規模でおこなっています。日本でも、昨年の東日

本大震災以来、国際本部や世界中の救世軍を通してたくさんのお金や物資が寄せられ、救援・支援活動を継続しています。日本で救世軍の働きが始められたのは一八九五(明治 28)年。その翌年には刑期を終えた人々の社会復帰支援の働きを始め、以降、失業者対策、貧しい人々への医療提供、廃娯運動の推進、児童養護など、日本の社会福祉・医療面で先駆的な働きをおこなってきました。現在、四十六の小隊(教会にあたる)と十の分隊(伝道所にあたる)、二つの病院(ホスピス併設)、バザー場を含む十九の社会福祉施設を通して、働きを進めています。また、年間を通して街頭生活者支援活動をおこなっています。

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(二六〇円)
十五日号一部六〇円(二六〇円)
クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(二六八円)
一年分(二七〇円)送料七二八円
振替 〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍
代表者 吉田 眞
編集人 齋藤 恵子
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二丁目十七番

発行所 救世軍本営
電話 東京(03)三三七〇八八一
印刷所 救世軍本営
図書印刷株式会社